

Vol.25(2007-1)

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

2007年1月3日(水)朝7時半の水温6、前日の大雨で牛久沼たまやボート桟橋周辺はカフェオレ色・・・なんでこんな厳しい条件でバス釣りに来ているかという、たまやボートでは毎年1月3日に「新春釣れなくてあたりまえオープントーナメント」を開催しているのです。3年前は水温3.5、釣れたのは全員で3匹、一昨年は6でなんと全員で1尾のみ。この1尾を釣ったのは副会長でももちろん優勝！昨年は記録的な寒さで牛久沼も10数年ぶりに凍結し中止でした。という訳で今年は水温6で晴天無風と正月大会にしてはかなり良い条件？での開催となりました。出場者は22名。この中にはたまやトーナメント始めての人も数名含まれており・・・正月は皆さん結構ヒマなんですね。かくゆう私も実はこの正月大会は始めてなのです。



写真1 スタート前風景

七時半にスタート。副会長はディフェンディングチャンピオンとして前日ブラに入っていました。その情報によると西谷田川上流は濁りが少ないとのことで彼は早速そちらへ向かいました。私もいずれは西谷田川へ行くとつもりでしたが、その前にチョット気になるポイントがあったのです。そこは「ねごや川」という小さな流れ込みで本湖の国道6号線の下にあります。非常に小さい川で水質も良くないのですが生活排水が流れ込むので水温が高く、濁りも少ないのではないかと考えたのです。本湖の水はさらにひどい濁りで多少不安になりましたがねごや川に着いてみると狙いは的中！河口から上流は底が見えそうなほど澄んでいました。水温も9以上！これならもしかして・・・と思いインチワッキーで細かく探って行きました。しかしそこはそれ、「もしかして」と思っても他のポイントよりは良いというだけで、真冬で水温9です。そうそうアタリが出るわけはありません。川の中程まで来たとき水底で白い影が動くのが見えました。バスかどうかはわかりませんがあきらかに魚です。いそいでその周辺にキャストしましたが残念ながら食いませんでした。この後もかなりしつこく粘りましたがあたりはなくねごや川を後にしました。本湖の浚渫跡は風表で濁りが強く、水温6でパス。早速西谷田川へ入りました。河口付近を狙うつもりでしたが、

アルミボートが10艇近く浮かんでいる。なぜこの時期に？どうやらWBSの蛭原選手が主催するトーナメントが行われているようです。河口部の葦をスピナーベイトで狙い、ブレークをドラッキングする作戦だったのですが、ボートとボートの隙間をチョコチョコ釣るのが精一杯でした。そのころ優勝候補の副会長は細見橋上流のオダにいました。プラの甲斐あって水色は良好、水温も9以上ありました。副会長はベイト派で大会にスピニングを持って来ることはほとんどないのですが本日はしっかり持参していました。とりあえず得意のクランクでオダを探りましたが当然アタリはなく、そこで生まれて40数年目(50に近い方の)にして初めてネコリグをセットしました。これは多分に昨年のAOYの青木選手の影響が大きいと思われます。これをオダに向かってキャストし、杭からブンッと外れたときに明確なバイトがありました。釣り上げたバスは920gのグッドサイズで、副会長を表彰台に載せるには充分すぎる大きさでした。結局2期連続優勝をなしとげ「正月男」の名称を与えられることとなりました(今、与えました)。ちなみに副会長は通常のツアーでは1勝もしていません・・・？

結局全員で1匹のみの釣果でした。こんな釣れそうもない真冬のトーナメントにのこのこ出場してくる22名と牛久沼バスに栄光あれ！！



写真2 唯一のサカナ



写真3 優勝者

Vol.26(2007-2)

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

2007年3月18日(日)朝7時半の水温8℃、暖冬で水温の上昇も早く例年より期待が持てる…はずだった2007年牛久沼たまやボート日曜トーナメント開幕戦。晴天だが北からの強風が一日中吹き荒れ、暖冬のはずが1週間前からの急激な冷え込みで冬に舞い戻った1日。先週木曜日の平日トーナメントはキロフィッシュ連発で、去年の低調からのリベンジを思わせたにもかかわらず、かなり厳しそうなお本日はある。

出場者35名、朝7時スタート。私は先週の平日トーナメントで好調だった東谷田川上流へ、副会長は得意の西谷田川へ向かった。気温低下によりバスが深い所へ戻ってしまった可能性があると考え、ゴルフ場前のオダや川の中心にある杭、オダを中心に、この時期の定番スピナーベイトで攻めた。OSPハイピッチャーの11gチャートリユースを使用した。本来なら7gを使いたいところだが強風のためこのくらい重い方が使いやすい。このスピナーベイトはご存知の通り並木氏の製作によるものだが名前のごとくブレードの回転が素晴らしく、それでいて非常にコンパクトな所が素晴らしい。オダでアタリがないため風裏の葦も攻めながら住宅下まで下った。しかし下流は濁りが強いので再度上流を目指した。このころ副会長は西谷田川の柳の木の根元にパワーホグのテキサスをキャストし明確なあたりで1600gのナイスフィッシュを獲っていた。私はその後、塚本ボート対岸から荃崎橋手前までパラ葦中心にハイピッチャーを撃ち続け…マア結局ノーフィッシュでした。しかしほぼ同じ所でナインティーズ3号棚木氏はシャローロールをパラ葦に入れて1260gをゲットしていた。



写真1 ナインティーズ入賞者

優勝…というより常勝は青木選手、たまや上流の壊れ桟橋の先でスピナーベイトを使い49.5cmでナント2340g！太すぎます！



写真 1 優勝青木選手

準優勝の渡辺選手も 48cm で 2000g、これも上流右岸のスピナーベイトでした。

結局バスを釣ったのは 35 名中 7 名で全員 1 尾ですが、7 位の棚木選手でも 1260g のキロフィッシュでした。しかも 7 名中 5 名がスピナーベイトです。

みごとに傾向が出ています。とにかくチャートリユース 3/8oz のスピナーベイト(シャローロール?)でパラ葦の中を引けば、ほぼ間違いなくキロフィッシュが獲れるということですね…私以外の人には…。

表1 入賞者ルアー種類

順位	重量	ルアー		重さ	色	
優勝	2340g	スピナベ	シャローロール	3/8	チャート白	葦
準優勝	2000g	スピナベ	シャローロール	3/8	白	葦
3 位	1820g	クランク				葦
4 位	1600g	テキサス	パワーホグ	5g		根
5 位	1560g	スピナベ	クリスタルS	1/4	チャート	葦
6 位	1420g	スピナベ	ハイピッチャー	3/8	チャート	葦杭
7 位	1260g	スピナベ	シャローロール	3/8	チャート	葦

35 名中 7 名というと少なく感じますが、例年こんなもんです。しかもすべてがキロフィッシュで 49.5cm だったら普通は 2 キロ弱？それが 2300 オーバーだもの！漁協が一生懸命わかさぎを放流した成果がハッキリ出ています！

昨年、絶不調だった牛久沼。明らかに復調の兆しが見えました。

Vol.27(2007-3)

みなさん こんにちは！

牛久沼釣行記やたまやボートトーナメント5月休日大会を報告させていただきます。会長は欠場のため、サブの私が報告いたします。

2007年5月20日 水温:18.5~20.5、朝の気温:15、風:北のち北西2~6m/sec強め、水位:満水、水色:にごり。前日プラに入った人の話では、前日の雷雨の影響でにごりがさらに増しているとのこと。

出場者40名。私は5/10の平日大会に出場し、たまやボート上流をエリアに釣りましたがノーフィッシュで終わったため、今回は自分の好きな西谷田川で勝負することにしました。朝6時スタート。下流方向に向かう選手は十数名いましたが徐々にいなくなり、西谷田河口ではAOY青木選手と二人でありました。



写真1 出船前の様子

青木選手は土手側からアシ、ガマを撃ち始めます。私は田んぼ側河口のアシを撃った後、得意の柳の木の本っこを中心に撃ちましたが、ノーバイトで10時ごろには見切りをつけて河口方面へ戻りはじめました。この時、青木選手とすれ違いましたが、やはりノーバイトとのことでした。(その後、青木選手はキロフィッシュを釣り上げポイントをゲットしています！)

田んぼ側には、田口さんが丁寧にアシを撃っているのが見えました。

結局、私は1バイトあったもののノーフィッシュで終わりました。

上位入賞者の報告です。

優勝者は西山選手(写真2、写真3中央)、百本杭近くのアシ、2本で2740g(49匹ビックフィッシュ含む)。ルアーはカバークローとM月さん秘蔵のポコワームのノーシンカーで朝イチと10時ごろにキャッチ。ビックフィッシュは水門からでているクリアな水とニゴリの境目にアシが絡んだポイントだそうです。西山選手は約3年ぶりの優勝です。私は、西山選手とペア大会に出場したことがありますが、キャスティング技術は私より数ランク上のテクニックを持った実力者です。おめでとうございます。

2位は田口選手(写真3右側)。西谷田の田んぼ側、岬状アシのワンドにあるガマで3本 2500g。センコーテキサスをガマの奥に落とし手前のガマまで引いてくるとバイトがあったそうです。1本は岬状アシ先端でキャッチしたそうです。

10時までには3本揃ったそうで、バスのアタリだけでなくブルーギルのアタリも多かったそうです。私が見かけた時にはリミットメイクしていたなんて.....。

3位は関選手(写真3左側)たまやボート上流の木の根っこ&ガマ、2本で2280g。9時ごろまでにロックローテキサスで釣ったそうです。風が強くなって10時にはたまやボートに上がってしまったそうです。

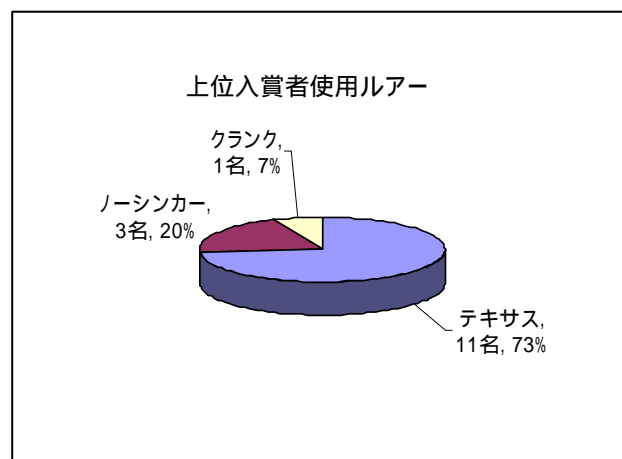


写真2 優勝! 西山選手



写真3 1~3位入賞者

上位15名のルアーはグラフの通りで、強風のためかテキサスが11名(73%)と圧倒的に多かったです。上位3名は、いずれも優勝経験のあるベテラン勢が占めました。



4位に入賞した福島選手は、唯一ハードルアー(クランク:ワイルドパンチ赤)で1700g<sup>㌘</sup>をゲットしています(写真4)。同選手は今年から本格参戦したワイルドな気鋭の選手で3月大会でもクランクで3位に入賞し、その翌週にはメキシコのレイクバカラックで8ポンドバスを釣り上げたそうです(羨ましい!!私は八郎潟も行ったことありません:泣)。



写真4 4位入賞 福島選手

天気予報(曇りのち晴れ)が外れて朝から快晴、北寄りの風が強く吹く悪条件の中で、ウェイン率は50%をキープ。サカナはスポーニングから回復している魚体が多く、6月3日のペア大会では、優勝ウエイト、ウェイン率ともにさらにアップすることでしょう!!

ペア大会(6/3日曜日)参加者募集しています。詳しくは[たまやボートHP](#)をご覧ください。

Vol.28(2007-4)

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

2007年6月17日（水）朝6時の水温23、気温23.5、適度な南東の風があり15日に梅雨入りしたはずなのに快晴の気持ちの良い一日です。

牛久沼たまやボート6月休日大会は朝6時スタート。たまやボート棧橋周辺は数日前の雨のためかなり濁っている。プラに入れなかったため、とにかく釣りをする時間を少しでも長く取るため棧橋近くの東谷田川河口の島から攻め始めた。この時期は例年比較的釣りやすいいためそんなに頭を悩ませずに定番のテキサス葦撃ちを選択した。ワームはイマカツのヘアリーホッグである。ワームだがラバージグのような毛むくじゃら・・・だからヘアリーホッグか？アピールは良さそうだし、ラバージグのように形状が変化するのでスレも少なそうである。釣り始めてすぐ、上流側の水通しの良さそうな葦岬の倒れ葦の下にキャスト。沈んでゆくラインが急にピンッ！と引き込まれた。瞬時に合わせる！TDバトラーハリアーのバットパワーで強引に葦から引きずり出し・・・と書くとかっこいいがそんな余裕なし。必死にリール巻いて震える左手でネットつかんでなんとかランディングした・・・ハア。何年やってもトーナメントの1尾は緊張するし、その何倍も嬉しい。なんとまだ6時半。早速副会長と3号に電話した。ついでに家で寝ている愛妻にもメール入れました。



写真1 ヒットポイント

これで一気に気合が入り、島を一周してから住宅下へ、また島に帰って来て、と島と住宅下を行ったり来たり。かなり真剣に粘っていましたが、しかし・・・しかし、例年に比べるとあたりはもちろん葦のガサガサなどの魚っ気がやはり少ない印象。10時ごろから南東の風が吹き始めたので、これはチャンスとスピナーベイトなども引っ張り出してみたが結局13時の終了までワンバイトワンフィッシュであった。副会長は得意の西谷田、3号は東谷田上流へ向かったがともに無念のノーフィッシュであった。

全体では出場37名中ウェイインは15名。優勝はたまや最古参の田口選手、西谷田川右岸の葦



のえぐれをセンコーやジャンボグラブのテキサスで狙い、1700gのビッグフィッシュ1本に小型2本で2140gのダントツ優勝。2位から9位までは8名中7名が一尾勝負となり私は840gで9位に入賞した。



写真2 9位入賞

興味深かったのは10位の山岸選手、ナント平均200gの小型を4本釣って入賞した。さらに11位以下はこのクラスの魚がほとんどであり、これらの魚は昨年生まれて越冬したもので、このクラスの魚が多く認められたということは今後おおいに期待できると考えて良いであろう。



写真3 10位山岸選手

今回の傾向としては、引き物で釣れた魚はなく、すべてテキサスかノーシンカーであった。晴天で夏日となり比較的夏パターンに近い釣りとなつてがまの奥にある葦の根元が狙い目だったようだ。

今年の牛久沼は昨年の大不調に比べれば明らかに良くなっている。しかしまだその影響は消えておらず、バスの絶対数は少ないと思われる。しかしベイトフィッシュとしてのワカサギが非常に多く、漁協の調査で6月現在約7cmの群れが非常に多く認められた。さらにおたまじゃくし、ザリガニも大発生しており今後の見通しは明るい。バスの数は少ないがコンディションは大変良く、さらに多くの200gフィッシュがキャッチされており、彼らの成長が期待される。

Vol.29 (2007-5)

みなさんこんにちは！

『牛久沼たまやボート休日7月大会』レポートを中西が報告します。

たまや情報局事前情報によると台風で水が入れ替わり活性が上がり、巻物系でも釣れていると  
のことで期待を胸に大会に臨みました。

2007年7月22日(日)水温23.5~24.5、朝の気温23、水位：やや高い6.00、天候：南よ  
りの弱風に霧雨が時々降る蒸し暑い中『牛久沼たまやボート休日大会』を迎えました。

台風の影響で1週間延期となり参加者も少なめと予想されましたが、33名の参加がありました。  
私は今回も西谷田川で勝負することにしました。西谷田川へ入った選手は、数名でプレッシャー  
は少ないと考えながら土手側をクランク、センコー4インチノーシンカーを交互に撃ち始めま  
した。

河口近くの田んぼ側に水門のある柳の木の絡んだ1級ポイント、柳の枝が水中に張り出してい  
る脇をノーネームクランクザリカラーで通したところヒット、遠目からの手ごたえを楽しみつつ  
バレないことを祈りながらランディングしたのは500gの元気のあるバスでした。時間は7時『今  
日は釣れる！』と思ったものの、その後釣れたサカナは同じようなポイントで同クラスがノーシ  
ンカーで1本のみ、キ口級のバラシもありリミットを揃えることはできず、ちょっと悔しい9位  
で終わりました。

上位入賞者の報告です。

優勝は青木選手(写真1)3本、2140gです。東谷田川上流塚本対岸のアシで700gを割りと  
早い時間に獲った後オダで300gを釣り上げましたが、もう一本が獲れずたまやボートへ戻りな  
がら12時30分過ぎにゴルフ場下のカクレオダでキッカーを獲ったそうです。

オダで使用したルアーは、青木選手の代名詞『ネコリグ』でした。

青木選手は3月大会に続いて今年2回目の優勝です。青木選手は、7月はじめに桧原湖目黒の大  
会にディフェンディングチャンプとして出場し、準優勝しています。牛久だけでなくどこへ行っ  
ても強い選手です。おめでとうございます。



写真1 優勝 青木選手

2位は西山選手(写真2右側)3本、1640gです。東谷田川ゴルフ場下から塚本対岸近くまでのアシを秘蔵のポコワームのノーシンカーでキャッチしました。ポイントはガマではなく『アシ』とのこと。7時までに2本、10時ごろ1本と早い時間でリミット達成したそうです。西山選手は5月大会で優勝後、ペア大会優勝、6月大会8位、今回2位と絶好調です。おめでとうございます。



写真2 準優勝 西山選手

3位は奥村選手(写真3)1本、1600gです。今大会No.1のビックフィッシュ、写真のとおりすばらしいサカナです。奥村選手は、私と同じで西谷田川が好きな選手です。今回は西谷田に直行せず住宅下に寄ってから西に入ったそうです。釣ったポイントは、柳の木の絡んだ1級ポイント(たぶん、私が釣ったところとほぼ同じ)。8時半ごろ、ノーシンカー6.5インチカットテールでキャッチしています。『柳の木の絡んだ1級ポイント』は皆が撃つポイントではありますが、サカナも濃いポイントです。おめでとうございます。



写真3 3位 奥村選手

今大会でサカナを持ち込んだ選手は27名、ウェイン率82%をキープ。事前情報どおり台風によって水が入れ替わったことが好釣果につながりました。釣れたルアーはテキサス、ノーシン

カー、スピナーベイト、クランクと多彩でした。

サカナのアベレージは25~35㌔クラスが多く釣れており、牛久沼復調を感じました。今後が楽しみです。

たまやボートでは様々な工夫を凝らして皆さんに楽しんでもらっています。今回はゆで『ざりがに』が参加者に振る舞われました(写真5)。これはマジ絶品です！あつというまに無くなってしまいました。ムキ身でお皿に載っていて食べたら『ざりがに』だなんて誰も気がつきません！また、今回の大会には、たまや出身『鈴木利忠プロ』も遊びに来てくれました。鈴木プロプロデュースのワーム『ゲーリーヤマモトワーム：オケラ』、ラッキークラフトプラグ、アブキャップなど多数のプレゼントありがとうございました。次回のカスミ戦頑張って下さい。たまやメンバー全員で応援してます！



写真4 牛久育ちの 鈴木プロ

その他新鮮な牛久久沼産の食材、とうもろこし、かぼちゃ、お米、牛久沼とれたてうなぎ蒲焼引換券など)も景品としてでます。

大会というと堅苦しいイメージを想像される方もいると思いますが、たまやボートの大会はアットホームな大会です。

今回は、8月19日(日曜日)、皆様のご参加をお待ちしています。



写真5 美味牛久ザリ

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

8月20日（日）40を越す最高気温を各地で記録し、久しぶりの夏らしい夏に嬉しいような苦しいような・・・しかし昨日から曇りとなり少しすごしやすくなったため本日は期待できるだろうか？牛久沼たまやボート8月大会のレポートです。

お盆明けの日曜日、出場者はちょっと少なめの25名、晴れたり曇ったりのマアマアの天候の中、6時スタートとなった。私は全くプラに入れなかったため、まずはたまやボートの下流側に広がる蓮の群生を流行りのパンチングで狙う。アタリがないのですぐに移動しましたが、ここは本当に見事です。数年前から進入禁止区域にしたところみごとな蓮の景色が蘇りました。牛久沼に来たらぜひ見てください。



写真1 たまや下流のみごとな蓮畑

蓮畑で反応がないため先日好調だった稲荷川へ向かった。ちょうど風の通り道になっているようで本湖側から適度な風が吹き、流れもそこそこあって水色も良好、なんだか良い雰囲気だ。上流に向かって左岸を釣りあがる。葦際はノーシンカー、奥はテキサスと使い分けながら攻める。ガマが揺れて魚の気配は濃厚だ。稲荷川は本湖からたかだか200m位の所にある三日月橋から上流はボート・フローター進入禁止となるため釣りができる区間は短い。本日はここを攻め切る！と決め、その短い区間を4往復した。8時ごろ葦のポケットに落としたカバークロー3インチをピックアップしたときに急にラインが引き込まれた！巻き合わせを入れるとクンクンといった軽い引きで25cmが上がってきた。

ヤッタ！嬉しい！ライブウェルに水を入れるためポンプのスイッチを入れた。このスイッチを入れられるかどうかはトーナメントでは大きな違いである。すなわちたった一匹釣れるか釣れないかが天と地ほどの違いなのである。もう一回言わせていただきます！ア～嬉しい。この時期、気温が非常に高いためライブウェルの水温もすぐ高くなりデッドフィッシュがやすい・・・ア～！！簡単に言うと、せっかく釣ったバスが死んでしまうのです！当然死魚は検量されませんしバスを殺すのはいやでしょ。色々なデッド対策がありますが私の方法は絶対自信がありますので公開します。タオル(ぞうきん)をビシャビシャにぬらしてライブウェルの上に広げるだけです。

ようするに真夏の直射日光は真上からライブウェルを照らし温度を上げます。それをビショヌレタオルでブロックするわけです。タオルはすぐに乾くのでまめに濡らすことを忘れずに！もちろん十分な外部循環とエアポンプは必要不可欠ですが。この三つを併用するようにしてから私は死魚を出したことはありません。ぜひお試しを！

話をトーナメントに戻します。一匹釣って気を良くし、さらに集中して釣り続けます。三日月橋の橋脚や対岸も攻めましたがあたりや葦の動きはなく、ナントナク今日は左岸が良いような感じでした。日が高くなった10時、さすがにもうダメかなと思った矢先に葦のポケットの奥のほうにゲーリーファットベビークローのノーシンカーを撃った。スッスススと小刻みにラインが引き込まれる。アタリだ！一気にロッドを煽る強烈なフッキングがばっちり決まった！上げてみればただか30cmのバスだったが久しぶりに気持ちのよい釣りだった。この後風が出始め住宅下に移動した。日影になる葦のポケットを撃ち続けたがあたりはなかった。私は2尾で820gの7位、副会長は西谷田を攻めやはり2尾で10位、副副会長は東谷田川を攻め、終了直前に420gを1尾釣って滑り込みの13位入賞とナインティーズ3人そろってナントカ入賞を決めました！



写真2 ナインティーズ入賞！

出場25名中ウェイインは14名と最近の牛久沼の状態を考えればかなり好調！復活の兆しを感じられた。優勝の内藤選手はたまやボート古参の一人である。たまや棧橋前にあるオダ攻めを得意とし、内藤オダと呼ばれていた。本日はオダではなくたまや周囲から東谷田川河口の葦をGrabノーシンカーで狙い、11時50分に47cm、1500gのビッグフィッシュを追加して自己2回目の優勝を勝ち取った。

全体的にリグはノーシンカーが大多数をしめた。魚は葦についており、水温が高く活性が低いということだろうか。興味深いことに6位の栗野選手はクランクで960gのグッドフィッシュをクランクで獲っている。場所は上流対岸の水門で水が流れているところだった。つまり水流があれば活性が上がって引き物にも反応すると考えられた。

ちなみに牛久沼たまやボートではジャンケン大会で米や野菜、果物など家庭に嬉しい賞品がもらえる。今回はナント！牛久沼で獲れた天然ウナギのうな丼が提供された。いまどき国産うなぎのうな丼はナカナカ食べられないでしょう！乞うご期待！！



写真2 優勝！笑顔の内藤選手



写真3 上位3選手



写真4 牛久沼うな丼とたまや社長

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

今年の夏は猛暑でした。マァそれとはあんまり関係ないのですが私8月は大変多忙で夏休みが取れなかったのです。そのかわり9月に休みをいただくことができ、平日大会と休日大会の両方にエントリーしました。

2007年9月13日（木）まずは平日大会の報告です。朝6時の水温24、曇り微風で釣り日和ですが前日の超大雨で一気に水かさが増えていました。普通の年であれば秋は減水するのですが、本日は満水の8～9割の大増水！急激な状況の変化はあまり良い兆候ではなく、結果から言えばやはりボーズでした。とはいえ本日は3日後に控えた休日大会のプラのつもりもあったので情報がとれただけOKとしましょう。だって出場者は28名、一人でプラをするの28倍の情報ゲットですから！！（・・もちろん釣りがたかったですけどね・・）。先月良かった稲荷川河口へ行き、それから西谷田川へ。西谷田川では葦もオダもブレイクも水門も、良さそうだと思うところは全て撃っていきました。河口部からすでにかなりひどいターンオーバー、さらに風の影響で左岸（土手側）は壊滅的でした。右岸もけっして良いわけではなく白濁りが入っていました。上流へ行けば改善するかもと考え細見広場のさらに上流まで上がりましたがほとんど変わらずノーバイトで1日を終えました。さすがに帰りはたまやボートまで1時間かかってしまいました。

出場28名中バスを釣ったのは11名とやはり厳しい状況でした。優勝は上杉選手、東谷田川上流すぐの対岸にある葦島をクランクで攻めキッカーとなる大型を早々にキャッチしたためそのままクランクを引き続けたが後がつづかず、右岸に渡ってセンコーノーシンカー、ファットイカノーシンカーで葦の岬状になっている所を狙って2尾追加、2400gで優勝しました。準優勝の平川選手は東谷田川上流の水門付近の葦をラバージグ1/2ozで攻め1900g獲りました。入賞者のほとんどが東谷田川上流のゴルフ場から塚本対岸をセンコーノーシンカーで釣っていました。西谷田川が壊滅的なことを考えると休日大会は東谷田川センコーで決まり！！・・・かな？

表彰式ではたまやボート社長が自ら獲って来た牛久沼産天然うなぎのうな井、ゆでたざりがに、鯉の煮付けが振舞われました。特に鯉は絶品でしたが結構多くの方が苦手だったのは意外でした。



写真1 平日大会優勝 上杉選手





写真2 平日大会上位3選手

というわけで3日後の9月16日(日)休日大会。作戦は決まっているのだが金曜日に一気に水を抜いたため水位が50cmほど下がっておりその影響がどう出るか？さらに朝から晴天強風、水がかき回されてターンオーバーのようにゴミは浮いていませんがかなり強い底濁り。減水すれば葦際がつぶれるし、底濁りが入ればオダがだめになる・・・心配です。とはいえ元々の作戦を変更するほどの度胸も知識もないのでさっそく上流へ、予定どおり塚本対岸のワンドを過ぎた所にある本流に面した葦に入りました。本来はノーシンカーで攻めたいのですがとにかく風が強くて、風裏の葦だけカバークローノーシンカー、その他はロッククローテキサスで攻めていきます。沖では白波が立っておりとにかく釣りにくい。途中中止の可能性も考えつつ必死に葦を撃ちました。上流の濁りはそれほどでもないがノーバイト。次に塚本の蓮畑の杭を狙います。強風の中ボートをスティさせるのが大変でしたがロッククローテキサスを丁寧にフォールさせました。しかしここでもアタリなし。くじけそうになった所で副会長からのメール。得意の西谷田川細見広場でパワーホグテキサスで1尾獲ったとのこと。西谷田川は3日前とは変わって、風と水を抜いたおかげで濁りはあるもののだいぶ改善しているようでした。このメールで俄然やる気が出てきました。この状況でも釣れるんだという気持と、私には副会長からTELが来ると釣れるというジンクスがあるのです。作戦どおりセンコーを使いたいのですがさすがにノーシンカーは厳しいのでネイルシンカーを押し込みセンコーノーシンカーモドキを作りました。これが思いのほか快調！会長快調！・・・スイマセン・・・吉野家対岸のワンドまで釣りあがり、ここまで狙わなかったワンド奥の水深30cmの所まで撃って行きました。風のあたるところは徐々に濁りが強くなっているため魚が奥にげこんでいる可能性を考えた作戦です。エレキが底に当たるほどの場所で倒れ葦の下にノーシンカーモドキを送り込む。ラインが数センチずつスッススススと4回引き込まれた！あたりダ～～！ハートランド「・・・」(ドットスリーと読みます、知ってます？本当に良い竿です)で電撃フッキング！ぱっちり魚の乗りを感じたところでフリッピングで引き出したラインを巻き取る。しかしこの隙に魚はボートの下へ！ピ～ンチ！フリッピングはこれがあるから難しい。引きも強くナカナカの型のようなだ。久しぶりにネットを使って掬い上げた魚は35cm、760gのナイスフィッシュでした。



写真3 水深 30cm のポイント&センコーノーシンカーモドキ

この後エレキを引き上げオールでしか入れないようなところばかり狙いました。確かに魚はたくさんいたので作戦は間違っていなかったように思いますが当たりはなく終了の 13 時を迎えました。たった 1 匹でしたが 8 位入賞、副会長は 880g で 6 位でした。



写真4 ナインティーズ 6 位&8 位入賞

ウェインは 28 名中 17 名 61%と比較的好調。優勝越川選手、準優勝青木選手ともに東谷田川上流吉野家からキャノン前のオダをテキサスとクランクで攻め、良型 3 本づつ獲っています。3 位以下の選手は葦狙いだったので本日は上流のオダが正解ということでしょう。

10 月は平日大会が 11 日(木)、休日大会が 15 日(日)です。初めてのかたも気楽に参加してください。面白いですよ。詳細はたまやボートHPまで。<http://www.tamayaboat.com/>



写真 5 優勝越川選手



写真 6 休日大会上位 3 選手



写真 6 牛久沼産うなぎ丼

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

牛久沼たまやボート2007年10月休日大会は22日秋晴れのもと29名の参加者にて行われた。朝6時半スタート、水温はスタート時点で16.8、弱い北風の吹く気持ちの良い一日である。水位は多少減水、葦際は浅いところで30cm、深いところは80cmほどである。前日の状況は快晴で一昨日より水温が上昇したため大変良く釣れた。ところが昨夕に雨が降り気温が一気に下がったため、一見良さそうだが結果的には厳しい一日となった。

出場29名中バスをウェイインしたのは13名45%、リミットメイクした選手はおらず、2尾釣ったのが4名、1尾が9名であった。

上位5名の成績を示す。

順位	重量	匹数	リグ	場所	ポイント
優勝	1940g	2匹	ネコリグ	荃崎橋付近	オダ
2位	1340g	2匹	ネコ、スピナベ	荃崎橋付近	オダ
3位	1280g	2匹	ジグヘッド	塚本柵	杭
4位	1020g	1匹	ダウンショット	塚本柵	杭
5位	740g	1匹	ネコリグ	上流右岸	葦島

最大魚は優勝者の1400gであった。その他は500~1000gを1~2匹釣っていることがわかる。バスをウェイインしたのは13名で釣り上げられたバスは17匹、全体的な結果としては、まず場所は東谷田川上流が7名ともっとも多く、たまや周辺からゴルフ場付近が2名、西谷田川が4名であった。ポイントはオダ、杭が5名、葦が7名、その他が1名であった。リグはネコリグが4匹、テキサスが4匹、スピナベ2匹、ジグヘッド2匹、バイブレーション、ダウンショット、ノーシンカーが各1匹（不明2匹）であった。

これらの結果を解析してみると、場所は明らかに東谷田川上流が良く、その近辺のオダ、杭をネコリグをメインとしたライトリグで攻めるのが正解だったようだ。ポイントはオダ、杭より葦のほうが多いが、とにかく葦の絶対量が圧倒的に多いのだから普段の大会と比較してオダ、杭でのキャッチ率が相対的に高いと言えるであろう。予想に反し巻物の成績が悪かったのも特徴のひとつに挙げられる。

優勝の石川選手は大会参加4年目にして初優勝！スタート前から本日はオダ、杭のみと決めていた。荃崎橋手前のオダに入りネコリグで、7時半に500g、8時に1400gのキッカーを釣り上げた。3バイト2フィッシュだった。

準優勝は青木選手、前日のプラでは巻物で2本、テキサスで2本と好調だった。本日は優勝者とほぼ同じポイントで8時にスピナベで800g、11時にテキサスでばらした後、ネコリグで550gを追加した。

我々ナインティーズは副会長がしぶとく西谷田川で520gをセンコーノーシンカーで獲り8位入賞した。全体に低調ではあるが、ウェイインした選手全員のバイト（アタリ）数は合計で37もあった。すなわち喰いはするものの浅いためフッキングしなかったということかもしれない。これで水温が安定する今週はかなりの好釣が期待できそうである。



写真1 初優勝 石川選手のキッカー1400g



写真2 準優勝は青木選手



写真3 上位3名



写真4 西谷田川の葦と木の複合ポイントを責める副会長

Vol.36(2007-10)

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

2007年11月11日（日）牛久沼たまやボート休日大会は小雨、微風の最高の釣り日和の中開催された。毎年11月は水温低下、ターンオーバー、減水などで難しいことが多い。昨年の11月大会は29名中ウェインはたった5名のみ、しかも全員1尾という厳しさだった。実を言うと私10年以上牛久沼に通い続けて今だに11月大会ボーズ記録更新中なのです。今年こそボーズ脱出という会長の遠大な夢を載せて朝7時スタートを切った。

水曜日にプラに入った時は大減水であった。故に葦際はかなり厳しく川を中心部にあるオダ、杭が狙い目だったが、週末の雨で40cm以上水位が上がり葦際も復活していると考えられた。まずはリリースフィッシュ狙いでたまや棧橋付近の葦をノーシンカーやネコリグで狙う。まだスタートして5分！バシャバシャという水音で振り向くと10mほど先で田中選手が良型を上げた。・・・やられた・・・と思いつつも今日は葦でいけそうだという考えと、結構釣れそうだという考えが頭をよぎった。しばらく周囲を探っていたがそれ以上あたりがないので上流のオダ、葦島などできるだけ水深のある所をスピナベ（ハイピッチャー9g）とネコリグで攻めて行く。天候はいかにも釣れそうだが・・・あたりはない。やっぱり急激に冷え込んだからタフなのかなぁ？と考えつつ、プラで最も生命感のあった住宅下へ向かった。この時たまや対岸の葦際は攻める山岸選手とすれ違った。この田中、山岸の2選手が・・・。

住宅下では水深のある葦際はネコリグやネイルシンカーを入れたセンコーで撃って行くが、しかしここもノーバイト。そこでやはりこの時期定番の水深がある西谷田川へ行こうと決めた。10年ほど前には11月の大会となると多くの選手が西谷田川へ入ったものだが、ここ数年は東谷田川上流方面のオダや杭が好調なため本日も西谷田川へ入ったのは私と副会長を含め確認できただけでは5名しかいなかった。



写真1 西谷田川左岸の杭とブレイク

西谷田川の定番の釣り方は川筋の葦や水没した柳の木をテキサスやノーシンカーで狙い、岸から急激に落ち込むブレイクやそこに点在する杭をクランクやスピナベで探るという方法である。

とにかく私の頭の中には 11 月は厳しいとインプットされているのでネコリグメインに葦際を探っていく。しかしまったくあたりはない。西谷田スペシャリストの副会長もお手上げのようだ。それでも「渋い」ことはわかっているので 10 年間でつちかわれた忍耐力で黙々と撃ってゆく（なんで忍耐力なんだ・・・もっとほかにキャストの正確性だとか、魚を見つける力とかそんなのがつちかわれてほしい）。すると上流から岡田選手がクランクを引きながら下ってきた。ナントここまで 6 バイト 2 フィッシュとのこと！！私は 0 バイト 0 フィッシュ！！そうか！そうだったのか！・・・というわけでクランクを引き始めた。

時間はもう 1 1 時半を過ぎており終了まで 2 時間ほどしか残っていない。もうこのままクランクと心中するしかないでしょう。始めはエバークリーンのスタンプルで比較的表層を引いていたが、もう少し潜らせたほうが良いような気がしてノリーズショットで水深 1 m 付近を狙った。一生懸命巻き続けていると竿先が軽く押さえ込まれるようなあたり。ほとんど抵抗なく上がって来たのは 25cm のバスだった。小さい！小さいけど OK！トーナメントでは 1 尾釣れるのと全く釣れないのでは天と地ほどの差がある。特に最近は渋いので 1 尾釣ればポイントを獲得でき年間ランキングに大きく影響するのである。これで迷いはなくなった。上流に向かって左側は岸際から急激にブレイクになっておりその途中に杭が多く存在する。そこを狙ってとにかくクランクを引き続けた。

しばらくすると河口部まで下って往復してきた岡田選手が近くに見えた。その時だった！かなり大きいあたりが伝わりフッキングとともにボートの周りを走られどうにかこうにか引き出してネットに突っ込んだのは 35cm のナイスフィッシュだった。ヤッター・・・岡田さんあなたは神か・・・？副会長も少し深めを狙ったところ良型をゲット。西谷田にいた 4 名は岡田大明神の教えを受け皆バスを釣り上げていたのだった。



写真 2 会長 6 位 副会長 10 位



2時に終了。結果は私が2尾で1220gの6位、一緒に西谷田にいた福島選手も2尾1260gで5位、田口選手2尾1160gで7位と続き、しかし岡田選手は3匹そろえていながら型に恵まれず1060gの8位であった。副会長は1尾ながら940gの良型で10位。岡田様、本当にゴメンナサイ、そしてありがとう。次回はどんなに釣れてもウソついていいからね。

優勝はスタートしてすぐとなりで釣った田中選手。最初の1尾はロックローテキサスで700g、その後棧橋前のオダでファットイカを使い1360gを釣り上げ2尾ながら2060gで優勝となった。準優勝は朝対岸ですれ違った山岸選手。ジャンボクラブテキサスとファットイカノーシンカーでたまや対岸を往復しナント8匹(以上?)。大型魚がライブウェルから逃げ出すというアクシデントがありながら2000gはみごとである。



写真3 優勝田中選手



写真4 準優勝山岸選手



写真5 上位3名となぜか嬉しそうなたまや社長

Vol.37(2007-11)

我々は牛久沼たまやボート選手会の会長と副会長、一緒にボートに乗ると年齢は二人合わせて90歳以上です。よって牛久沼90（ナインティーズ）！牛久沼釣行記やたまやボートトーナメントを報告させていただきます。

2007年12月9日（日）牛久沼たまやボート休日大会,平成19年最終戦は晴天、朝7時の水温7.9の比較的穏やかな日和とはいえそこは12月、毎年厳しい展開は必須だ。なんと昨年は全員ノーフィッシュでたまや史上初の不成立試合となってしまった。今年はそれに比べて条件は良さそうだし年間の成績も向上してきた・・・けっこう釣れちゃったりして！などという甘い考えの中28名の命知らずはスタートをきった。

私としては今回3つの選択肢があった。

東谷田川ゴルフ場前のオダ

稲荷川

西谷田川の3つである。

ゴルフ場前のオダは過去数回12月の優勝者を出している実績ポイントだがダメな年は全くダメであたりはずれが大きい。稲荷川は川筋にしっかりしたブレイクがあり冬場は狙い目だがわかさぎ釣りの投げ込み釣りが盛んで釣りにならないことが多い・・・よって今回は西谷田川のブレイクを狙う作戦を選択した。朝7時のスタートとともに迷いなく西谷田方面へ舳先を向けた。



写真1 楽しそうなスタート風景（赤いダウンに変な帽子がたまや社長）

晴天無風、12月としては過ごしやすい朝である。風もなく静かな湖面に朝日がオレンジのスペクトルを振りまく。82ポンドのエレキで快調に飛ばしながらポットの熱いコーヒーを飲んでみた。今年の3月に開幕し、スポーニングの4月を除いた毎月トーナメントがあり、本日がその最終戦、すなわちクラシックである。

西谷田川も稲荷川と同様、河口から大勢のわかさぎ釣り師が仕掛けを入れている。そのためプランに入れていた好ポイントもなかなか入りづらい状況であった。とりあえずわかさぎ釣り師のいないところまで遡って釣り開始。上流に向かって左岸の岸際から急激に落ちるブレイクをキラールビミノーで狙う。11月大会で同じポイントでクランクが良かったが今回は水温の低下とともにバスの活性も低下しているはずなので、とにかくゆっくり引いて止められるルアーを選んだ。さらにキラールビミノーには低活性時のショートバイト対応にサードフックが付いており、まさに12月大会にもってこいのルアーなのである！（・・・と思います）岸に向かってキャストしブレイクにそって引いて来るとブレイクの下がりきったあたり（水深1.7m付近）でいきなりガツツというアタリ！しかし一瞬だったため合わせられなかった。1匹でも釣れれば上位入賞となる12月大会、残念ではあるがしかしこれで今日のパターンが見えた気がした。ここから一心不乱にキラールビミノーを引きつつ上流へと登った。細見橋の手前まで来たがアタリは最初の1回のみ。いつもならくじける所だがこの頃からかなり強い風が吹き出した。もちろん北風なので一端上がりかけた水温もまた少し下がってしまったもののやはり風が吹くということは状況が変化するというのである。わずかな望みを胸にキャストし続けたのであった。ワカサギの群れが頻りに魚探に映る。当然バスはワカサギを追っているはずなのでルアーをスーパースレージのワカサギカラーに変えてみた。トレースする水深は少し浅くなるが群れの上限あたりはかすめるはずだ。一生懸命投げて、一生懸命巻いて、気が付いたら時計は終了1時間前を指していた。西谷田川からの帰り時間は風の影響も考えると45分はほしい。残り15分・・・必死に投げ続けて2007年が終わった。

いつもの12月に比べていかにも釣れそうに思われた今年のたまやクラシックではあったが、幕を閉じてみればウェインは3名、すべて1尾ずつであった。

優勝寺崎選手 始めは西谷田を攻めていたが反応がないため住宅下まで引き返し、風が吹き始めてから沖のオダで1220gを獲った。ルアーは往年の名機ウィグルワートの赤であった。

準優勝は横井選手 最近の定番である東谷田川上流の塚本の柵にコンバットクランク250を通して1140gを獲った。

3位の鈴木選手はナント私の目の前で釣り上げた。西谷田左岸（土手側）の柳の木がからむシャローをテキサスを使って640gを釣り上げた。プロトのワームで新しいことをやっている・・・としか教えてもらえなかった。ということは来年爆発するのかもしれない？



写真2 上位・・・というか、魚を釣った3名

昨年はおととしの大寒波の影響でかなり厳しい年で今年も明らかにその影響がのこっていました。しかし牛久沼は明らかに回復してきています。とにかく豊富なベイトフィッシュがいます。夏には例年へどろのようになるアオコモすごく少なく水質の改善を思わせませす。漁協の努力が大きいことは言うまでもありませんが、日本有数の密生した葦が沼を守っているのだと思います。ゴミを捨てない、ゴミを拾う、当たり前が使いつくされた言葉ですが、朝日に輝く湖面と風にそよぐ葦の群生、それらを守っていくわずかな力になればと思っています。副会長をはじめたまやメンバーの皆さん、牛久沼の水と葦、そしてブラックバス、今年1年本当にありがとうございました。